

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

|               |  |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ       | 【 I・III 】  |
| 2 実施対象者       | 石峯中学校 全校生徒150名   |
| 3 展開の形式       | (1) 学校における活動<br>① 教科名 ( ○ 総合的な学習の時間 )  |
| 4 目標<br>(ねらい) | <p>本校は昨年度より、「北九州市オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」の指定を受け、オリンピックやパラリンピックの意義や素晴らしさ、国際的なマナーやスポーツと人権などについて学習する取組を進めてきた。また、パラリンピアン選手を招き、子どもたちと交流、講演、スポーツ教室を通して、パラリンピックについての理解を深め、東京2020大会への関わり方について考える契機としている。</p> <p>&lt;アイマスク体験学習・ブラインドサッカー体験学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚に障害をもった方たちの生活の苦勞や工夫を知り、アイマスクの使用等の体験やブラインドサッカーの体験を通じて、さまざまな障害をもった方たちと共生する社会について考えるきっかけとする。</li> <li>・ 誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。</li> </ul> |
| 5 取組内容        | <p>「アイマスク体験学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日時 平成30年11月 9日(金) 13:40~15:00</li> <li>○ 場所 北九州市立 石峯中学校 体育館</li> <li>○ 参加者 石峯中全校生徒150名</li> <li>○ 活動の流れ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>① 講話(30分間)</li> <li>② アイマスク体験(45分間)</li> </ul> </li> </ul>  |



- ・石峯中学校の先生の足音クイズ（誰の足音か当てる）
- ・その場足踏み100回（無意識に動いてしまうことを体感する）
- ・目隠しジャンケン
- ・二人ペアでアイマスクをして体育館を歩く
- ・音源を頼っての歩行 など



○ 講師・ファシリテーター

北九州視覚障害者就労支援センター「あいず」次長 吉松政春 様  
（視覚障がいをもたれています）

サポートしていただく方 尾形 満歳 様

※ この活動は、11月17日（土）の土曜日授業「ブラインドサッカー体験学習」に向けての事前学習になる。

「ブラインドサッカー体験学習」

○ 日時 平成30年11月17日（土）8：50～11：30

○ 場所 北九州市立 石峯中学校 体育館

○ 参加者 石峯中全校生徒150名

○ 活動の流れ

① 講話（30分）



② ブラインドサッカー実技披露（30分）

休憩（15分）

③ ブラインドサッカー体験（65分）



アイマスクを着用し、専用のボール、ゴールを用いた体験活動

|                         |  |
|-------------------------|--|
|                         | <p>○ 講師・ファシリテーター<br/>福岡県立北九州視覚特別支援学校 保健体育科教諭 光安和久 様<br/>NGO法人北九州スポーツクラブACE<br/>ブラインドサッカーチーム「LEO STYLE 北九州」様（4名）</p>  |
| 6 主な成果                  | <p>○ 視覚障がいをもたれた講師の経験や体験を、具体的に見聞きすることを通して、普段何気なく過ごしている生活の中に、さまざまな障壁となるものが多く存在することを理解することができた。</p> <p>○ 障がい者の方々が、コミュニケーションをとるために工夫していること、そして、苦労を乗り越えて生きる強さなどを感じ取ることができた。</p> <p>○ 「コミュニケーションを密に図りながらチームプレーをする」姿を見ることで、視覚に頼れないことから、声を出すことや聞くこと、相手を思いやる気持ちなど、コミュニケーションの重要性に気付かせることができた。</p> <p>○ 目が見えない状態のため、積極的に仲間と支え合わなければ成し遂げられないこと、仲間との信頼関係の大切さを実感させることができた。</p> <p>○ ハンディをもつことでわかる、自分の得意なことや苦手なこと、強みや弱み、そうした一人ひとりの違いや多様性を認識したうえで、さらに自分に何ができるのかを考えさせることができた。</p> <p>○ 仲間に頼り、支えてもらいながらも、勇気をふり絞って自分自身で課題を乗り越えていく気持ちの大切さを体感することができた。</p> <p>○ 障がい者と接することにより、「障がい者＝特別な人」ではなく、自分と同じ当たり前の存在として受け止めることができた。</p> |
| 7実践において工夫した点<br>(事業の特色) | <p>○ アイマスク体験では、初めて体験する様々なアクティビティが準備されていたので、講師との打合せを綿密に行い、本校職員の役割や体育館の使い方など事前にイメージする必要があった。</p> <p>○ 普段、接する機会がほとんどないブラインドサッカーを体験することになるので、専用のゴールやボール、全ての生徒にアイマスクを準備した。</p> <p>○ ブラインドサッカー体験では、アイマスク体験とは異なり、危険性が増すことから、怪我防止等の安全面での配慮が必要であった。職員の配置や体育館の場の設定など、講師との綿密な事前打合せが必要である。</p>   |
| 8主な課題等                  | <p>○ アイマスクは感染症予防のために、全生徒一つずつ準備する必要がある。中規模以上の学校では予算を考慮する必要がある。</p> <p>○ 専用のサッカーゴールが必要なため、今回は教育委員会から購入いただけた。備品を有効に活用するために、全市に周知する必要がある。</p>  |
| 9来年度以降<br>の実施予定         | <p>今後も、東京オリンピックまでに、パラリンピアン選手等を招き、子どもたちと交流、講演、スポーツ教室等を通して、パラリンピックについての関心・意欲を高めるとともに、一層理解を深めていきたい。そして、東京2020大会への関わり方について考える契機としていきたいと考える。</p>  |